



CFP実践ガイド等について

2023年3月24日

環境省 地球環境局地球温暖化対策課
脱炭素ビジネス推進室



1. 脱炭素経営とカーボンフットプリント (CFP)

大企業のサプライチェーン全体のGHGマネジメントの促進

- サプライチェーン全体の排出量算定の支援。（情報提供webサイトの運営、算定ガイドラインの策定・提供）
- TCFD提言に沿ったシナリオ分析の実施支援とともに、Scope3排出量の削減を進めるため、サプライヤーと連携した削減計画づくりを支援。（計画策定支援モデル事業の実施、ガイドブックの策定・提供）
- さらに、企業の課題感を踏まえ、削減努力を反映可能な算定方法や、製品・サービス単位の排出量算定・表示手法を整理中。
- こうした取組を通じ、サプライチェーン全体の排出削減を促進し、企業価値・競争力の向上を後押し。

情報提供webサイト

グリーン・バリューチェーンプラットフォーム
サプライチェーン排出量算定から脱炭素経営へ

お問い合わせ サイトマップ 日本語 English
環境省 経済産業省
Ministry of the Environment Ministry of Economic Affairs

算定をはじめの方へ 算定時の参考資料 企業の取組事例 国内の取組 国際的な取組

環境省ホーム > 政策分野・行政活動 > 政策分野一覧 > 地球環境・気候環境協力 > 地球温暖化対策 > 温室効果ガス排出量 > グリーン・バリューチェーンプラットフォーム

温室効果ガスのサプライチェーン排出量算定 (Scope1, Scope2, Scope3)・
SBT・RE100・WMBなどの
「脱炭素経営」に関する情報プラットフォームです

● サプライチェーン排出量算定をはじめの方へ
● 企業の業種別取組事例を知りたい方へ

グリーン・バリューチェーン・プラットフォーム

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/index.html

削減計画策定ガイドブック

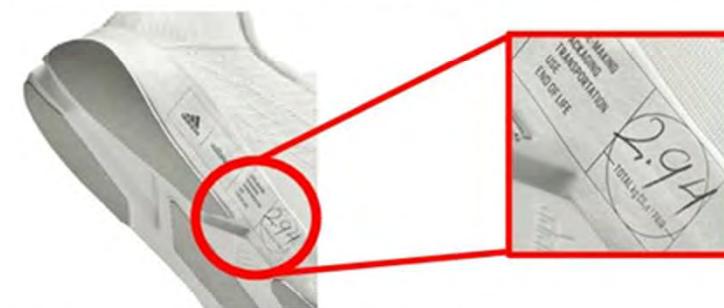
環境省
Ministry of the Environment

SBT等の達成に向けた
GHG排出削減計画策定ガイドブック
(2022年度版)

2023年3月

製品・サービス単位の排出量算定・表示

●靴での見える化の事例 (出典：アディダス、オールバース)



●衣類での見える化の事例 (出典：アダストリア)



※アダストリアのグループ会社「ADOORLINK」が展開する「O0u」の取組

中小企業における脱炭素化促進に向けた環境省の取組

サプライチェーン全体での脱炭素化促進に向け、環境省では中小企業に対して、多様性のある事業者ニーズを踏まえて、①地域ぐるみでの支援体制の構築、②算定ツールや見える化の提供、③削減目標・計画の策定、脱炭素設備投資に取り組んでいく。

【脱炭素化への取組のステップ】

取組が評価され企業価値が向上、投融資や事業機会が拡大

取組の動機付け (知る)



排出量の算定 (測る)

②算定ツールや見える化の提供

- 支援人材が、中小企業を回る際に使う算定対話ツールの提供【R5新規】
- 事業者に対する温室効果ガス排出量の算定ツール(見える化)の提供【R5新規】※利用はR6からの予定



削減目標・計画の策定、脱炭素設備投資 (減らす)

③削減目標・計画の策定、脱炭素設備投資

事業者に対して、削減計画策定支援(モデル事業やガイドブック等)

- ・CO2削減目標・計画策定支援(モデル事業・補助)
- ・削減目標・計画に係るセミナー開催、ガイドブック策定



事業者に対して、脱炭素化に向けた設備更新への補助、ESG金融の拡大等

- ・省CO₂型設備更新支援(1/3、1/2 or CO₂削減比に応じた補助)
- ・サプライチェーン企業が連携した設備更新(1/2 or 1/3補助)
- ・ESGリース促進
- ・環境金融の拡大に向けた利子補給事業(年利1%上限)



企業の「脱炭素経営」取組事例

脱炭素経営を実践している企業をご紹介します。取組の具体的な方法や、取組を通じて得られたメリットなど、自社の参考にしてください。

動画はコチラ



ひろがるカーボンニュートラル
脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいる企業、自治体、団体の声をご紹介します。

<https://www.env.go.jp/earth/carbon-neutral/message/>

読み物はコチラ



中小規模事業者向けの脱炭素経営導入事例集
脱炭素経営促進モデル事業で支援した、脱炭素経営に取り組む中小企業の事例をご紹介します。

<https://www.env.go.jp/commes/006/1146/v7.pdf>

カーボンフットプリント (CFP) を活用した官民におけるグリーン製品の調達の推進と、その基盤となるガイドラインの整備

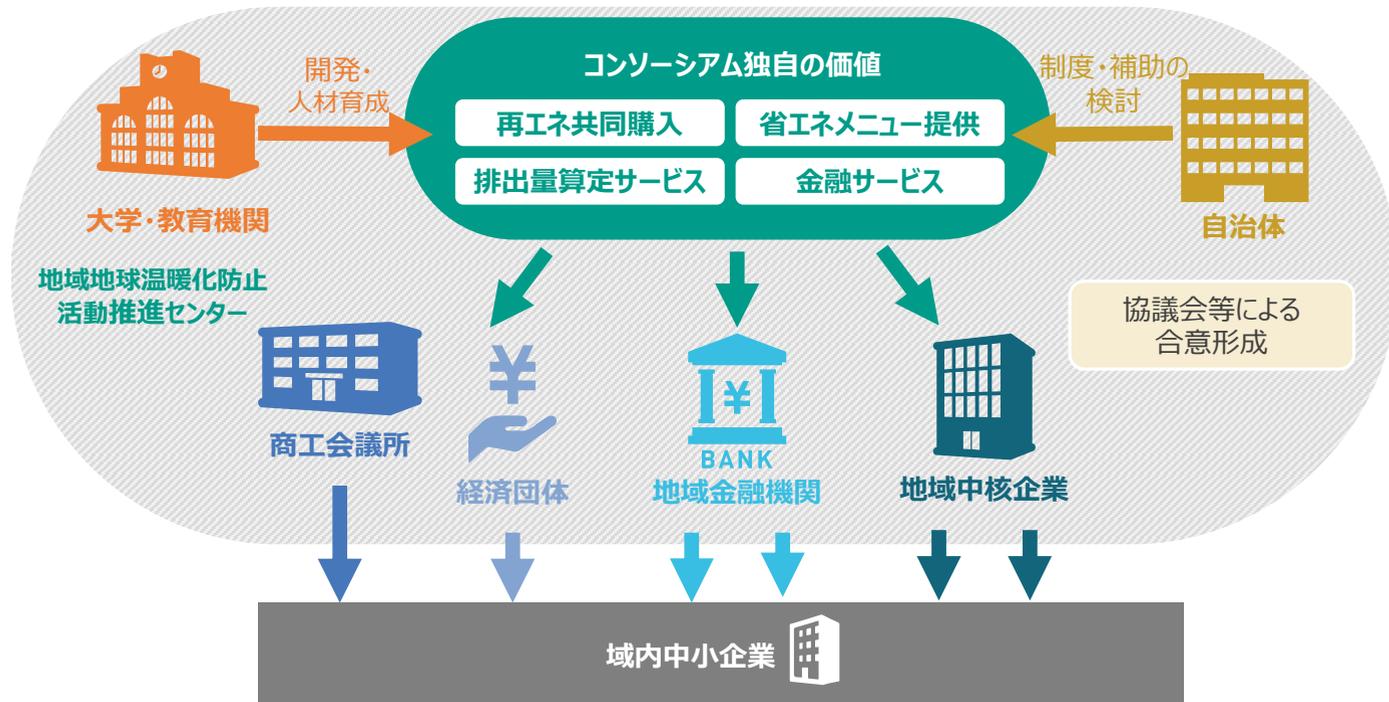
中小企業における脱炭素化促進に向けた環境省の取組（続き）

地域ぐるみでの支援体制構築

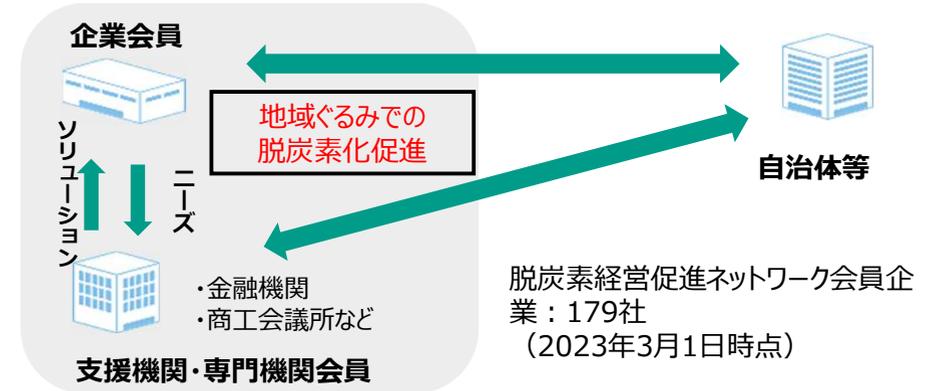
○地域金融機関、商工会議所等の経済団体など(支援機関)の人材が、中小企業を支援する支援人材となるための説明ツールの提供やセミナー等開催による育成、人材バンクの活用を含めた専門機関とのマッチング支援（地域ぐるみでの支援体制構築に向けたモデル事業を実施）【R5新規】

○環境省が認定する資格制度の合格者が中小企業への助言ができるよう、脱炭素化アドバイザー資格制度の認定事業を検討【R5新規】

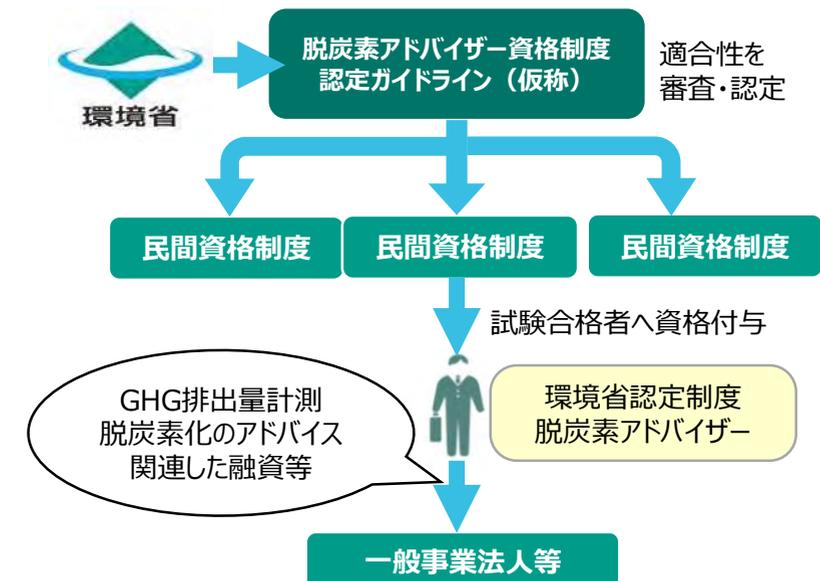
地域ぐるみでの支援体制構築（イメージ）



Green Value Chain促進ネットワーク (2023年4月よりリニューアル)



脱炭素アドバイザー資格制度の認定（イメージ）



③ 削減目標・計画の策定、脱炭素設備投資（減らす） 脱炭素経営に関する各種ガイドブック



中小規模事業者のための脱炭素経営ハンドブック～これから脱炭素化へ取り組む事業者の皆様へ～

- これから脱炭素経営の取組をスタートする中小規模事業者を対象に、脱炭素経営のメリット及び取組方法について「知る」「測る」「減らす」の3ステップで解説。
- 併せて参考ツールとして企業の取組事例（計28社）を別途掲載。また脱炭素経営についてポイントを簡単に解説したパンフレットも新規追加。



SBT等の達成に向けたGHG排出削減計画策定ガイドブック 2022年度版

- 企業が中長期的視点から全社一丸となって取り組むべく、成長戦略としての排出削減計画の策定に向けた検討の手順、視点、国内外企業の事例、参考データを整理。Scope3排出削減の肝となるサプライヤーとの排出削減に関連した解説を拡充。
- また企業の取組事例(計19社)を別途掲載。



TCFDを活用した経営戦略立案のススメ～気候関連リスク・機会を織り込むシナリオ分析実践ガイド 2022年度版～

- TCFD提言における11の推奨開示項目のうち、企業が特に対応を悩む“シナリオ分析”に焦点を当て解説。全セクターを対象としており、幅広いセクターの事例（国内外 計43社）や参考パラメータ・ツール等を掲載
- TCFD提言を取り巻く最新の国内外動向や事業インパクト評価に関する算定イメージや算定パターンの具体例を追加。



インターナルカーボンプライシング活用ガイドライン～企業の脱炭素・低炭素投資の推進に向けて～ (2022年度版)

- 企業の経営層や環境関連部署の担当者を読者と想定し、脱炭素の取組を推進する手法の一つであるインターナルカーボンプライシング（ICP）導入時のポイント・実施方法について解説。
- ICPの実践において検討すべき内容を具体化し、令和4年度 環境省支援事業（4社）を通じた取組事例を追加。





モデル事業支援やガイドブック作成により、サプライチェーンでの企業の脱炭素経営を普及・高度化し、脱炭素化と競争力強化を図ります。

1. 事業目的

グローバルにESG金融が拡大する中、サプライチェーン全体の排出量が企業価値に影響し得ることから、サプライチェーン全体での企業の脱炭素経営（気候変動対策の観点を織り込んだ企業経営）を普及・高度化し、企業の脱炭素化と競争力強化を図る。これにより、国内外からESG金融を呼び込み、我が国における「経済と環境の好循環」の実現を目指す。

2. 事業内容

以下の事業を有機的に連携させながら実施し、脱炭素経営の取組を中小企業を含むサプライチェーン全体の企業の経営や実務に落とし込むとともに、その取組が評価されるために必要な環境整備を行う。

(1) サプライチェーンの脱炭素化促進事業

- ① サプライチェーン全体での脱炭素化促進情報発信支援事業
- ② 製品・サービスの排出量見える化・削減支援事業
- ③ 脱炭素経営の戦略策定・情報開示等支援事業

(2) 中小企業向け脱炭素経営実践促進事業

- ① 地域ぐるみの中小企業支援体制構築事業
- ② 中小企業の排出削減計画策定支援事業

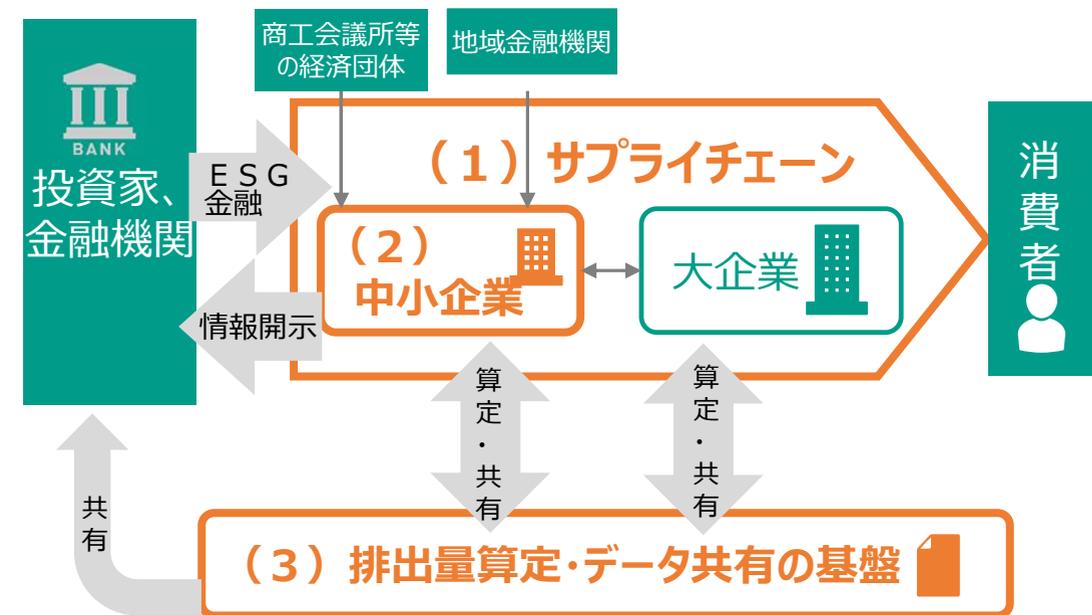
(3) 排出量算定・データ共有の基盤整備事業

- ① 「省エネ法・温対法・フロン法電子報告システム」保守運用・改修等事業

3. 事業スキーム

- 事業形態： 委託事業
- 委託先： 民間事業者・団体
- 実施期間： 令和5年度～令和7年度

4. 事業イメージ



お問合せ先：

地球環境局 地球温暖化対策課 脱炭素ビジネス推進室 03-5521-8249
大臣官房 総合環境政策統括官グループ 環境経済課 環境金融推進室 03-5521-8240
自然環境局 自然環境計画課 生物多様性主流化室 03-5521-8150

2. CFPモデル事業と実践ガイドについて

モデル事業の概要

- 個別の製品・サービスのGHG排出量の算定・表示に取り組むことを通じて、排出削減とビジネス成長の両立を目指す企業を支援する

背景

- 「地域脱炭素ロードマップ」においては、国民が脱炭素に貢献する製品・サービスを選択できる社会を実現することが示されている
- その実現のためには、企業が個別の製品・サービスのカーボンフットプリント (CFP) の算定を行い、消費者に伝える取組を推進することが必要
- 一方、CFPの算定・表示を行う難易度・業務負担が大きいことが課題となり、取組に躊躇する企業も少なくない



事業の目的と実施内容

国民が脱炭素に貢献する製品・サービスを選択できる社会を実現するため、本事業では以下に取り組む

- ① CFPの算定・表示を通じた排出削減とビジネス成長の両立のロールモデルを構築
- ② 構築したモデルケースを幅広い企業に横展開するためのガイドブックを作成・公表

CFPに取り組む
モデルケース
構築

① モデル企業支援

- CFPの算定及び表示・活用を支援し、先進的なロールモデルを創出

幅広い企業
への横展開

② 知見のガイドブック化

- モデル企業支援で得られた知見等をガイドブックとして取りまとめ

国民が
脱炭素
行動を
選択
できる
社会



時間	プログラム
13:30~13:35	開会の挨拶 山田美樹環境副大臣
13:35~13:45	BCGによる動向ご紹介
13:45~14:35	セッション① サプライチェーン全体での脱炭素化に向けての企業間連携 株式会社ワールド カルビー株式会社 高砂香料工業株式会社 ソフトバンク株式会社
14:35~15:45	セッション② 各地域における中小企業の脱炭素化に向けて 加藤軽金属工業株式会社 株式会社NTC 八洲建設株式会社 株式会社スタンダード運輸 株式会社パブリック 株式会社おぎそ
15:45~15:55	休憩 (中小規模事業者向けの脱炭素経営 導入動画放映)
15:55~16:45	セッション③ CFP算定と脱炭素化への今後の活用の方向性 株式会社ユナイテッドアローズ 株式会社コーサー 東京吉岡株式会社 明治ホールディングス株式会社
16:45~16:50	経済産業省による施策紹介
16:50~16:55	農林水産省による施策紹介
16:55~17:00	閉会の挨拶

食品関係事業者

エグゼティブサマリー（支援事業への活用へ）

掘りだそう。自然の力。
Calbee

サステナの方針

カルビーグループは、持続的に成長していくために、SDGsに表される持続可能な社会の実現に取り組んでいる。**社会課題の解決と事業活動を両立**していくことがグローバルに求められており、それを追求することが企業の新しい価値に繋がる。

農業に密接に関わるカルビーにとって最も重要な社会課題は**環境問題**であり、この取組みを解決していくことが持続可能な社会の実現につながる。

GHG排出削減に関する現状

環境問題の取組みとして、**温室効果ガス総排出量**を2030年迄に30%削減することに取り組んでいる。スコープ1&2の取組みでは、再生可能エネルギーの導入やエネセンの設立等により、-21.5%(2021年度)達成。しかしながら、**自社だけでは取組みが難しいスコープ3**については、-6.6%(2021年度)となっている。

環境省支援事業での取組み内容

今回、環境省の支援事業において温室効果ガス排出量削減のための施策および**ロードマップ作成**（対象：スコープ3）に取り組んだ。施策が**排出量削減につながる**よう、排出係数の見直しを実施し、**ベンチマークを見直した**。施策としては、**ばれいしょ生産者とのエンゲージメント**と、アセスメントを通じた**原材料サプライヤーとのエンゲージメント**とした。

この施策の削減効果予測は、5.4万トンである。しかしながら、2030年目標達成には3.5万トン不足している。生産者とのエンゲージメントにおいて、**現実路線から野心的な目標**に近づけること、残された施策などの推進が、2030年温室効果ガス総排出量30%達成の鍵となる。この野心的ロードマップを目指す体制として23年度体制発足（サステも支援）。また、サプライヤーアセスメントからのGHG排出量削減については、アセスメントを継続し、**モデル企業**の追求、削減、展開を進める。

重点テーマ 温室効果ガス(GHG)削減 現状

握りだそう、自然の力。
Calbee

重点テーマ

地球環境への配慮：温室効果ガス排出量削減



目標 (KPI)

2030年 温室効果ガス総排出量30%削減(国内12工場)

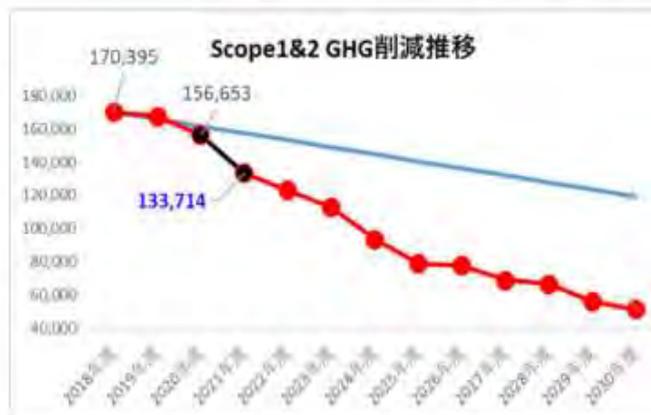
2021年度進捗

Total 11.4%削減 (Scope1&2 : -21.5% **S3 : -6.6%**)

青線 目標
赤線 見込
黒線 実績



2030年度
目標 **-30.0%**
見込 **-21.1%**



★課題はScope 3★
削減ロードマップを環境省の支援事業で検討 (2022)

Scope 3 Cate 1 において大きく割合を占めるものを対象施策として取組む

生産者エンゲージメント - ばれいしょの削減インパクト試算

掘りだそう、自然の力。
Calbee

対象となる排出源		施策	削減率	削減インパクト
		削減施策	2030年 削減・転換率	
肥料	窒素、リン酸、カリウム、マグネシウム	減肥・低排出係数肥料	中	使用量削減 及び 排出係数の 低減を算出
農薬	殺菌剤、殺虫剤	散布量を削減	—	
資材	マルチシートなど	生分解性・ 環境配慮型素材を使用	—	
燃料	軽油・ガソリンなど	軽油をバイオ燃料へ切り替え	大	
その他		再生可能電力ほか	中	

Copyright © Calbee, Inc. All Rights Reserved.

R4年度モデル事業の取組（カルビー）④



生産者との排出削減ロードマップ（野心的：37,600トン）



Copyright © Calbee, Inc. All Rights Reserved.

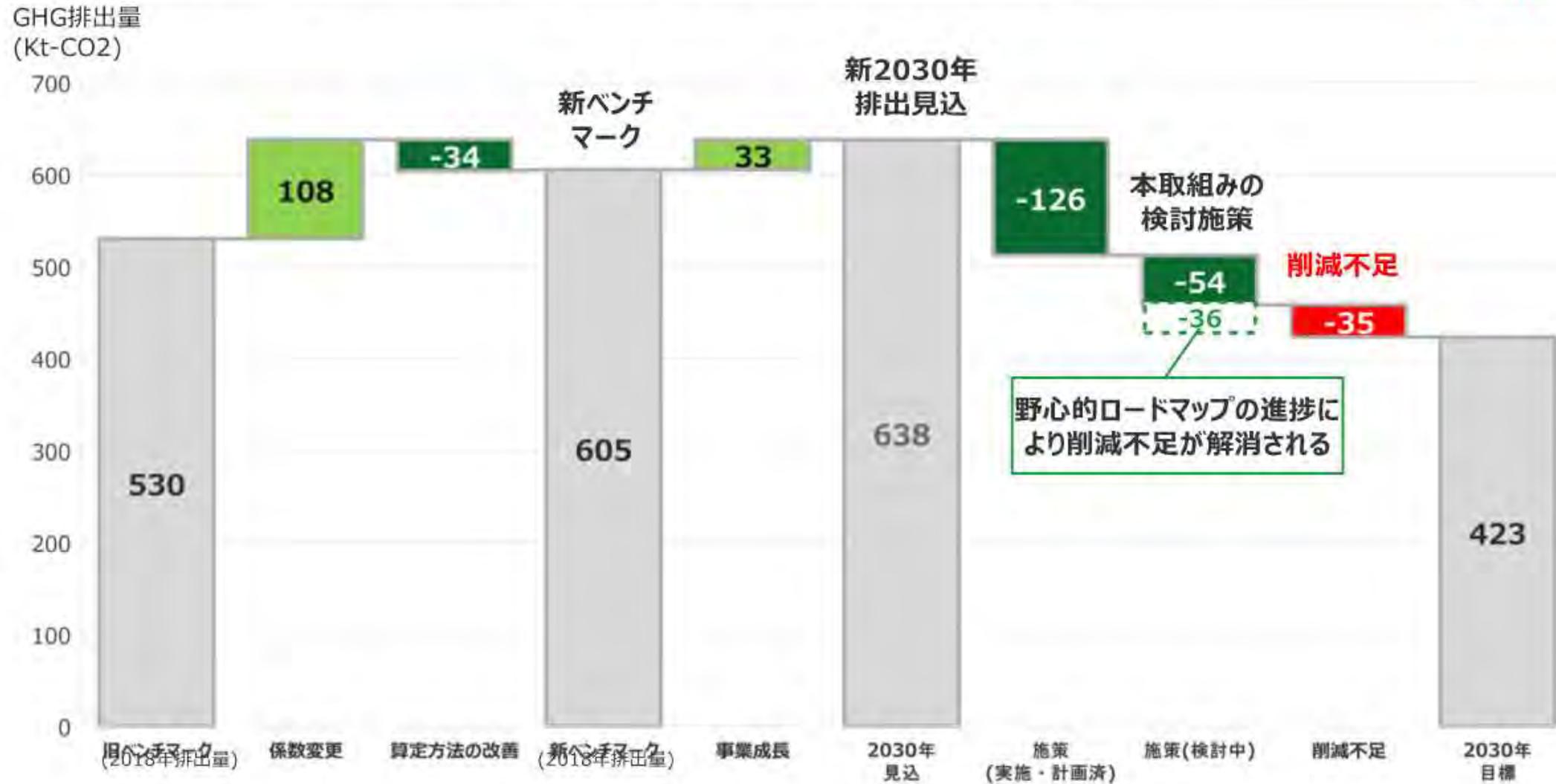
R4年度モデル事業の取組（カルビー）⑤

サプライヤーとの排出削減ロードマップ（削減量：52,000トン） **Calbee** 掘りだそう、自然の力。



R4年度モデル事業の取組（カルビー）⑥

（参考）ベンチマーク更新および施策の削減試算



Copyright © Calbee, Inc. All Rights Reserved.

残論点：削減不足と社会課題の解決



サプライチェーン 排出量

- 生産者エンゲージメント
現実的1,700t⇒野心的37,600t
☆取組む組織体制の強化
生産者とのエンゲージメント強化、サプライチェーン以外のパートナーとのエンゲージメント
- 原材料サプライチェーンエンゲージメント
アセスメントを通してモデル企業とのエンゲージメント

自社施策の推進

- ・ スコープ1/2:設備投資の再検討

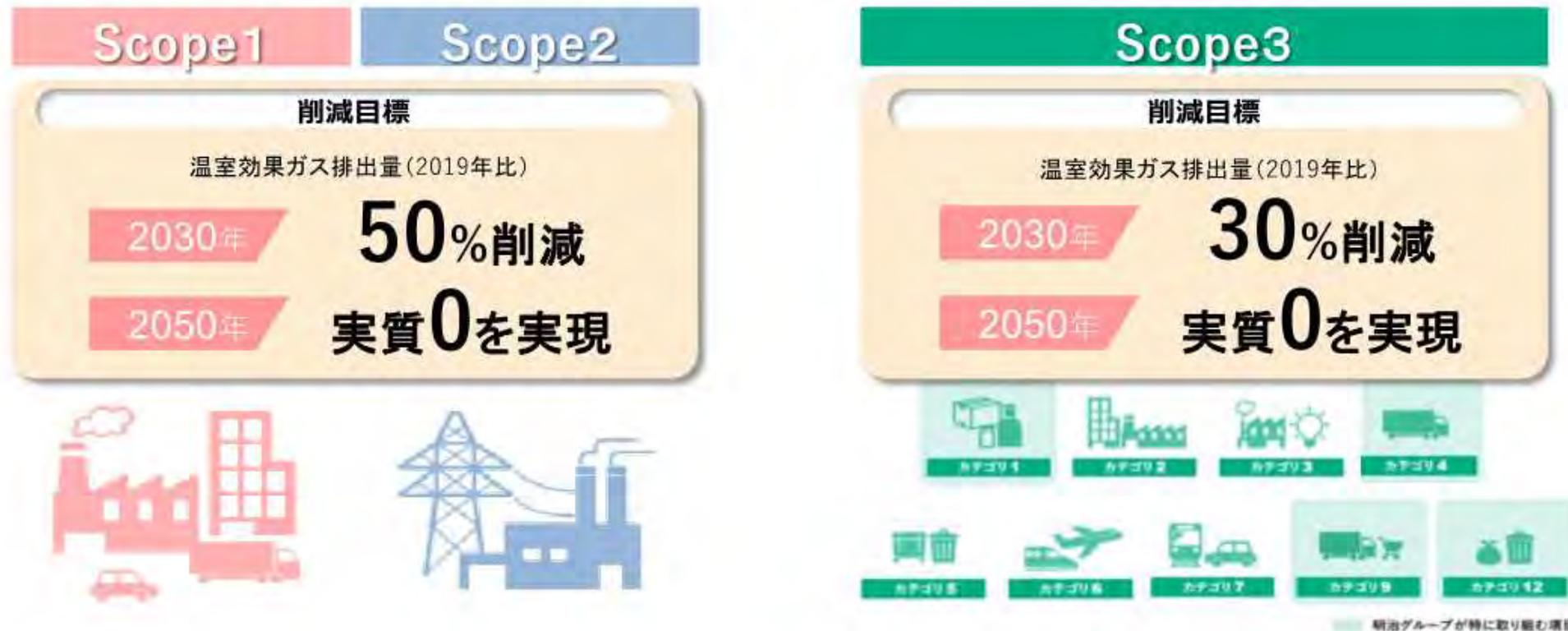
社会課題 (国へのお願い)

- ・ **生物多様性の取り組みによるGHG排出緩和策**
- ・ **社会インフラの発展（燃料・電力、水素、メタン）**
- ・ **新技術（肥料・農薬・BDF・バイオ炭など）**
- ・ **CO2排出量削減の価値に見合った市場改革**

経営戦略におけるCFPの位置付けと期待



■明治グループにおけるGHG排出量削減目標

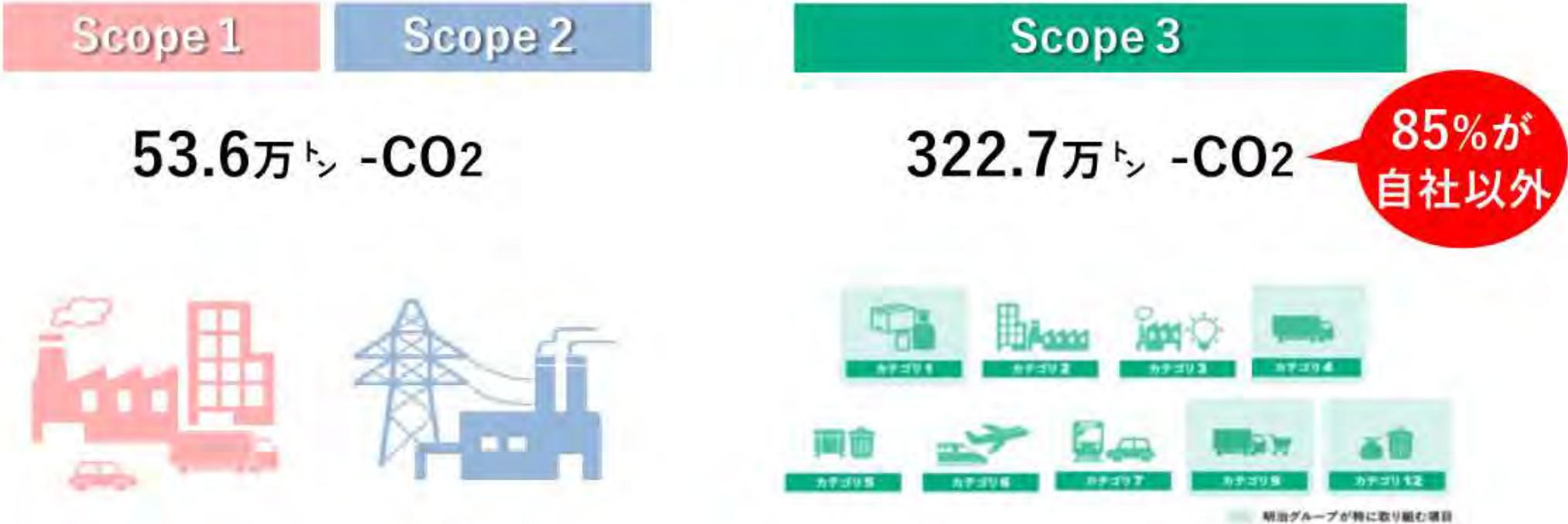


R4年度CFPモデル事業の取組（明治ホールディングス）②

経営戦略におけるCFPの位置付けと期待



■現状の明治グループにおけるGHG排出量（2021年度）



© Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

経営戦略におけるCFPの位置付けと期待



■ CFPの役割

- ① ライフサイクルの各プロセスにおけるGHG排出量の「見える化」によりGHG排出量削減の優先順位付けができる。
- ② カーボンニュートラル実現に向けて、消費者がGHG排出量のより少ない製品を選択する必要があり、その根拠としてCFPによる「見える化」が不可欠。

■ GHG排出量削減により期待できる効果

【生産者】

- ① GHG排出削減量のクレジット化などによる**新たな収入源**
- ② GHG排出量削減をした**原材料の付加価値化**による収入増

【明治グループ】

- ① 新たな**市場機会の獲得**（例）カーボンゼロ〇〇の発売など
- ② カーボンプライシングへの対応⇒**コスト負担の低減**
- ③ 原材料の**持続可能な調達**の推進

NEWS
RELEASE

健康にアイデアを
meiji

明治ホールディングス株式会社

2022年11月18日

報道関係者各位

「明治ミルクチョコレート」の CO₂排出量の見える化へ向けた取り組みを開始

—環境省実施の「製品・サービスのカーボンフットプリントに関わるモデル事業」へ参加—

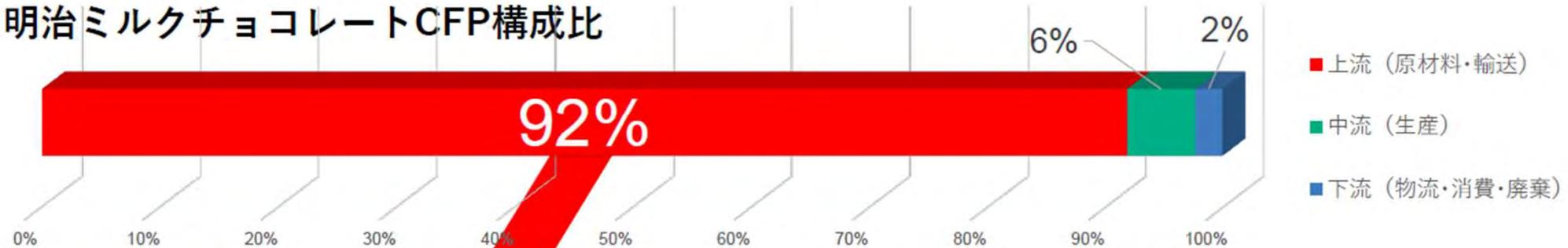
明治ホールディングス株式会社（代表取締役社長 CEO：川村和夫）はこのたび、環境省が実施する「製品・サービスのカーボンフットプリントに係るモデル事業」へ参加し、当社を代表する「明治ミルクチョコレート（50g）」を対象に、製品ライフサイクルの各工程でのCO₂排出量の見える化に向けた取り組みを開始しました。





排出源毎の排出量の定量化に伴う削減施策の優先順位付けと課題

■明治ミルクチョコレートCFP構成比



■上流部分の内訳



■原料別の排出係数の比較

原材料		排出係数 (kgCO2e/kg)	出典元
チョコレートに絡む原料	カカオ豆 (世界平均)	[比較対象として表示]	[比較対象として表示]
	砂糖		
	全脂粉乳 (脱脂粉乳)		
参考他農産物	小麦 (世界平均)	[比較対象として表示]	[比較対象として表示]
	とうもろこし (世界平均)		
	大豆 (ブラジル)		

- ① 上流部分の中で原材料の割合が**98%**を占め、**カカオ豆由来が非常に大きい**。一方、**輸送は僅か2%**。
- ② **カカオ豆**は、他の農産物と比べて**排出係数が非常に大きい**。【**第一の優先課題**】

排出源毎の排出量の定量化に伴う削減施策の優先順位付けと課題



■課題①解決に向けての取り組み

◇調達しているカカオ豆の実態に則した排出係数の算出が必要。

- ① 森林伐採に関与していないカカオ豆の調達を推進。
- ② カカオ豆の単位面積当たりの収穫量の向上。

■明治グループのカカオ産地での取り組み

① 明治独自の**カカオ農家支援活動「メイジ・カカオ・サポート」**の実施。

* 森林減少への取り組み

〔アグロフォレストリー農法の推進、森林教育、苗木の配布、森林保全活動など〕

* カカオ豆の生産性向上

〔収穫量を増やす栽培方法、肥料・農薬の使用方法の指導〕

② 2026年度までに「**明治サステナブルカカオ豆**」の調達比率100%に向けて調達活動を推進。⇒2022年度の調達比率**約63%（見込）**

◇将来的には、こうした取り組みを反映した排出係数を算出したい。

排出源毎の排出量の定量化に伴う削減施策の優先順位付けと課題

健康にアイデアを
meiji

■課題②：消費者の環境に配慮した消費促進への対応

◇消費者にとって付加価値となるような情報発信・普及啓発が必要。

- ① カーボンニュートラルの必要性を訴求。⇒ **GHG削減への意識醸成。**
- ② 製品CFPが消費者の**購買の判断基準**になるような**行動変容**を促進。
- ③ 低炭素／脱炭素製品が**割高でも購入してもらえる消費行動**の促進。

■課題②解決に向けての今後の取り組み

- ① 消費者に誤解を与えぬよう**実態に即したCFP算定結果の開示**が必要。
- ② 「GHG削減量」、「環境負荷低減への貢献度」など「**見える化**」する仕組み構築。
⇒ **消費者にとっての付加価値化に繋げる。**
- ③ **低炭素／脱炭素製品の発売**による消費の促進。
- ④ **エシカル消費促進**に向けて、官民が連携した情報発信・普及啓発活動。

レポート及びガイドライン公表に向けた進め方

- CFPLレポート及びCFPガイドライン公表に向けては、以下のスケジュールで進めてはどうか。
- 意見募集(パブリックコメント)を踏まえ、3月初旬に1週間程度の書面審議を実施し、
 - CFPLレポートについては、事務局とりまとめ、座長一任
 - CFPガイドラインについては、経産省および環境省において整理とりまとめの上で、3月末を目途に公表してはどうか。

2023年1月31日 第四回検討会（本日）

テーマ： モデル実証事業の結果報告

「CFPLレポート案」及び「CFPガイドライン案」への意見募集について

2023年2月初旬～
（2週間程度）

レポート案及びガイドライン案についての意見募集

2023年3月初旬

意見募集を踏まえたレポート案及びガイドライン案について（書面審議）

2023年3月末目途

レポート及びガイドラインの公表

第3回 サプライチェーン全体でのカーボンニュートラルに向けたカーボンフットプリントの算定・検証等に関する検討会（資料抜粋）

CFPガイドライン(仮) 骨子案

1. 本ガイドラインに関する基本的考え方

- (1) 本ガイドラインの位置づけ
 - ・ 背景(課題認識)
 - ・ ガイドラインの位置づけ
- (2) 想定する読み手
- (3) 用語集

2. CFPの意義・目的

- (1) CFPに取組む意義・目的
- (2) CFPの提供を受けて利活用する者が注意すべきこと
 - ・ 製品間比較をする際の留意点
 - ・ CFPの検証は誰がどのように行うべきか

3. CFPの算定・検証

- (1) Step1: 算定方針の検討
 - ・ 目的の明確化
 - ・ 算定方針の検討
- (2) Step2: 算定範囲の設定
 - ・ バウンダリーの設定
 - ・ カットオフ基準の検討
- (3) Step3: CFPの算定
 - ・ データ収集
 - ・ 計算
 - ・ CO2以外のGHGのCO2換算

(4) Step4: 検証・報告

- ・ 検証
- ・ 情報開示

4. CFPの実践ガイド

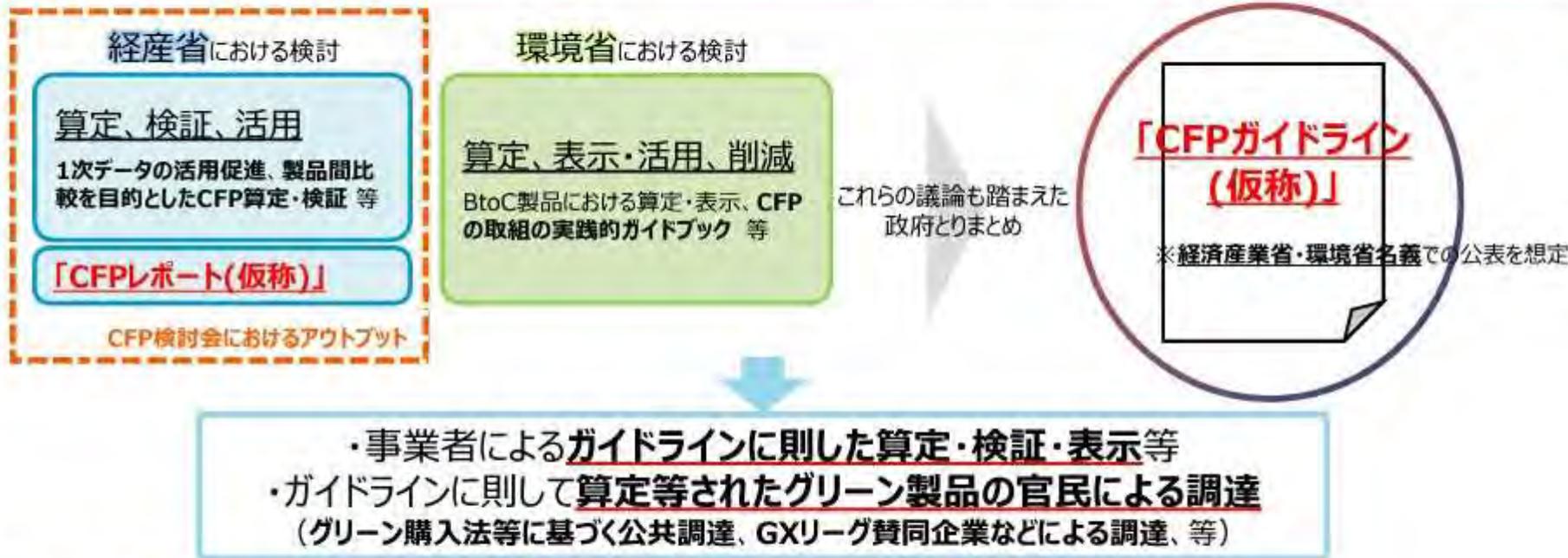
※モデル実証(環境省事業、経産省事業)の結果等を踏まえて記載を検討

5. 参考

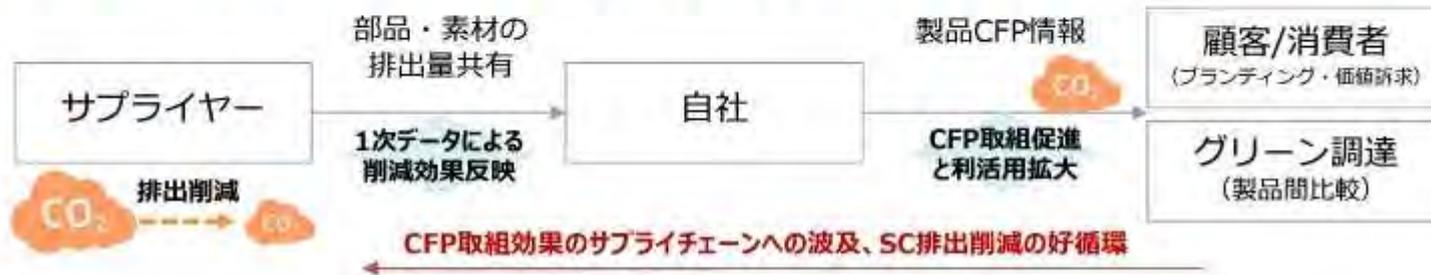
- (1) 本ガイドラインの検討の体制
- (2) 留意事項
- (3) 改訂履歴

CFP検討会のアウトプットと今後の方向性

- CFPガイドラインを踏まえた算定・表示等を通じ、事業者の自主的なCFPの算定・把握や、官民におけるグリーン製品の調達行動を促すことで、製品サプライチェーン全体での排出削減を進める



CFPガイドライン(仮称)による算定・検証・表示を通じた、製品サプライチェーン排出削減の促進のイメージ



CFP検討のステップ

第1節 算定	(1) Step1 算定方針の検討	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的の明確化 (Why) ② 対象製品の選定 (What 1/2) ③ 対象とするライフサイクルステージの決定 (What 2/2) ④ 参照規格・基本方針の決定 (How)
	(2) Step2 算定範囲の設定 Step3 CFPの算定	<ul style="list-style-type: none"> ① バウンダリーの設定 (ライフサイクルフロー図の作成) ② カットオフの基準の検討 ③ 算定ルールの設定・算定手順書の作成 ④ 算定ツールの用意、データの入力
第2節 表示・開示	(1) 表示・開示に向けた準備	<ul style="list-style-type: none"> ① 表示・開示のルールの理解 ② CFP算定報告書の作成
	(2) 表示・開示の実施	<ul style="list-style-type: none"> ① ターゲット・訴求ポイントの決定 ② 表示・開示の実行
第3節 削減	(1) 削減目標の設定	—
	(2) 削減対策の検討	—

各セクションの構成

	項目	内容	読者層イメージ
本編	何を行うのか？なぜ行うのか？	概念と基本的な言葉の説明	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; background-color: #d9ead3; padding: 5px;">担当部署リーダー</div> <div style="border: 1px solid gray; background-color: #d9ead3; padding: 5px;">算定担当者</div> </div>
	参照すべきガイドライン	ガイドラインの掲載ページ	
	具体的な取組方法	基本的な取組方法	
Appendix	実務上の注意点	上手く取り組むためのコツ	
	各社の実践内容	モデル事業参加企業などの具体的な取組事例	

